

## 小規模校のメリット、デメリットについての学校聞き取り調査結果

小規模校のメリット、デメリットについて		聞き取り調査結果
メリット	・児童生徒どうしが、互いをよく理解しあえ、人間関係が深まりやすい。	・互いにファーストネームで呼び合うほど親しい。異学年交流も活発である。 ・保護者同士のつながりが深く、地域の人、子どもの顔をほとんど知っている。
	・教職員の目が児童生徒一人ひとりに行き渡り、きめ細かな指導ができやすい。	・全教職員で全児童に関わることができる。 ・全ての子どもに対して指導しやすい。 ・一人ひとりが主役になる機会が多い。(運動会、発表会など)
	・教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。	・子どもたちや保護者にとって、担任以外にも相談できる教員がいる。 ・日常的に意見交換が行いやすい。
	・施設設備の使用にゆとりがあり、柔軟に対応できやすい。	・ゆとりがあるため、子どもの怪我が非常に少ない。 ・部活動は、補欠や控えに回ることが少ないので、活動しやすい。 ・静かな環境で学習できることに満足している保護者もいる。

デメリット	・交友関係が限定されやすく、多様な考え方に触れる機会が少なくなりがちである。	・良いクラスのあり方を知らない。 (整理整頓の行き届いたクラスや、活発に発表するクラスなどに触れる機会が少ない。) ・保護者が、クラス替えもなく刺激が少ないと感じている。 ・切磋琢磨の機会を求める保護者が多い。 ・競争などを通して、互いを高めあう機会が少ない。 ・高学年になると担任教員よりも児童同士の関係が出来上がっているため、指導しにくい面が生じる。 ・子ども同士の関係が崩れたとき、逃げ場がない。
	・運動会など学校行事の盛り上がりには欠け、学校全体に活気が出にくい。	・綿密な計画性と高い指導力が必要である。 ・気分が高まりにくく、向上心を発揮できる機会に欠ける。 ・何事にも小さくまとまってしまう傾向がある。 ・運動会を、校区体育祭と合同で行うなどの工夫が必要である。
	・教職員の数が少ないため、校務分掌の負担が過重になりやすい。	・林間学校等の学年行事は、対外折衝やしおり作成など全て1人で行わなければならないので、負担が大きい。 ・1人の教員が複数の分掌を掛け持ちし、またその分掌への配置人数が少なく負担が大きい。 ・地域行事への教員の参加が少ない。
	・部活動の指導教職員が不足しやすい。	・教員数が少ないため、顧問や指導者不足は深刻である。 ・活動休止を検討しなければならない部活動がであることを危惧する。